

# 公益の風 #13



東北公益文科大学  
教授

小野 英一

「公益の風」という連載テーマをいただき、蘇った文章がある。「酒田市は、どこからともなく公益の風が流れてくるまちである。公益の文字を刻んだ「公益の碑」をはじめ、いたるところに公益の足跡が残されている。まち全体が、公益を探り、公益を学ぶ宝庫である」。これは約15年前、2006年に本学が刊行した『公益の源流、酒田を歩く。公益の足跡をたどる、公益を考える。』の巻頭言、小松隆三氏による一文である。

## 酒田と「公益の風」

歴史が連続と続いてきており、「公益のふるさと」とも称される。そして先人の公益活動を顕彰する「公益の碑」も各地に存在する。

東北公益文科大学の近辺にも「公益の碑」が数多くみられる。最も近くにあるのが砂防林植林にある「松林碑」であり、大学から徒歩わずかの道路端にある。「公益」の刻字がある「公益の碑」としては、大学のグラウンドから最上川方向に少し進んだところに「中瀬渡船碑」、車で数分の十里塚公民館前に「高橋五郎治功德碑」がある。なお、大学から少し離れるが、遊園部にある「開田記念碑」にも「公益」の刻字がある。

これらはいずれも20世紀のはじめに建立されたものである。つまり「公益の碑」が生まれた100年ものち、この地に「公益」を冠した大学が生まれたということである。運命というものを感ぜざるをえない。

同書において「公益の薫風かよい、公益の精神漂う公益の丘」と紹介されているのが市民の憩いの場である日和山公園である。山王森の頂には本間光丘を顕彰した「松林銘」が鎮座している。酒田市が全国に誇る「酒田市公益のまちづくり条例」は「本間光丘」と「東北公益文科大学」という固有名詞が入っていることであるが、その前文において、前者は「公益の祖」として、後者は「公益学の発信地」として登場する。旧白崎医院隣にある「白崎良弥君之碑」、駐車場隣にある「荒木彦助翁功績像」には「公益」の刻字がある。さらに港を望む丘の端には、六角灯台と並んで「石井君紀功碑」が立っている。



中瀬渡船碑



高橋五郎治功德碑



松林銘

例は「本間光丘」と「東北公益文科大学」という固有名詞が入っていることであるが、その前文において、前者は「公益の祖」として、後者は「公益学の発信地」として登場する。旧白崎医院隣にある「白崎良弥君之碑」、駐車場隣にある「荒木彦助翁功績像」には「公益」の刻字がある。さらに港を望む丘の端には、六角灯台と並んで「石井君紀功碑」が立っている。

を示す羅針盤である。市の行政計画に「公益の精神」が記されたことの意味は大きい。

東北公益文科大学が開学して20年の月日が経った。この間、公益大は酒田に流れる「公益の風」の中にいた。これからも変わらないうつ、流れ出した風は止まらない。動き出した運命もまた止まらない。

「敬天愛人」2022年7月号 Vol.160掲載（荘内日報社発行）